

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成18年度病虫害発生予報第9号(12月)について

このことについて、病虫害発生予報第9号を発表したので送付します。

予報第9号

向こう1か月間の主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病虫害名	発生現況	発生予報	
		平年比	平年比	前年比
イチゴ	ハダニ類 アザミウマ類	やや多 -	やや多 -	並 やや多
野菜共通	ミナミキイロアザミウマ	やや多	やや多	やや多

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

気温は平年より高いでしょう。降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は高く、2週目は平年並、3～4週目は高いでしょう。

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

(福岡管区气象台 18年11月24日発表抜粋)

作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（ + ）は発生を助長する要因、（ - ）は発生を抑制する要因、（ ± ）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

【野菜】

1 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査結果（ + ）

寄生株率 11.7%（平年 3.9%、前年 16.8%）

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年より高く、降水量は平年並か多い。（ + ）

(3) 防除上の注意

ア ハダニは、はじめスポット的に発生し、地面に

接した下位葉ほど寄生が多い。多発生後は防除が困難となるので、葉かぎ等の管理作業時によく観察し、発生がみられたら早めに防除を行う。

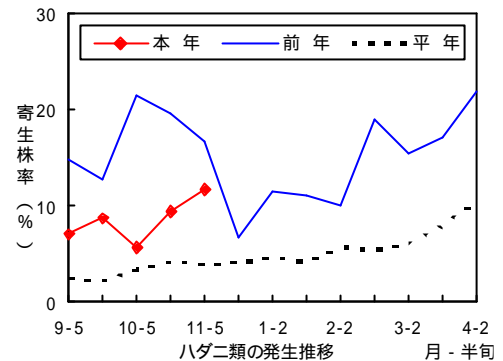
イ 防除は摘葉後に行うと効果的である。その際、葉裏に薬剤が十分かかるようにする。

ウ 苗の植え替えの際、ハウス内へ寄生株を持ち込まないように注意する。

エ ハダニ類が寄生した摘葉や除草した雑草は、ハウス内に放置せず、ビニル袋に入れ密閉して処分する。

オ チリカブリダニ等の天敵を利用する場合は、天敵に対して影響の少ない殺ダニ剤を散布し、ハダニ類の密度を下げておく。

カ 薬剤によってはミツバチへの影響があるので、薬剤の選定は注意する。



2 イチゴのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 11月5半旬調査結果（ + ）

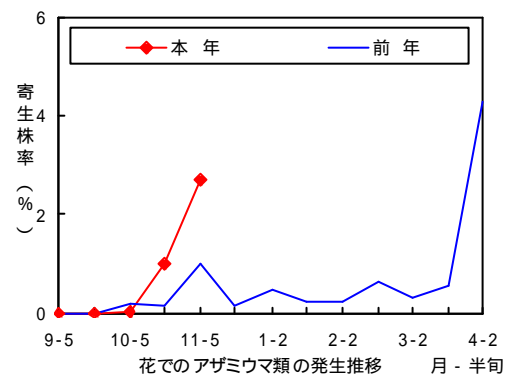
寄生株率 2.7%（前年 1.0%）

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年より高く、降水量は平年並か多い。（ + ）

(3) 防除上の注意

ア 初発は出入り口やハウスサイドに見られるので、この付近の果実の被害や花への寄生を観察し、防除を行う。なお、花に軽く息を吹きかけると成虫が飛び出し、観察できる。

イ 薬剤によってはミツバチ、天敵への影響があるので、薬剤の選定は注意する。



3 ミナミキイロアザミウマ (野菜共通)

(1) 予報の内容

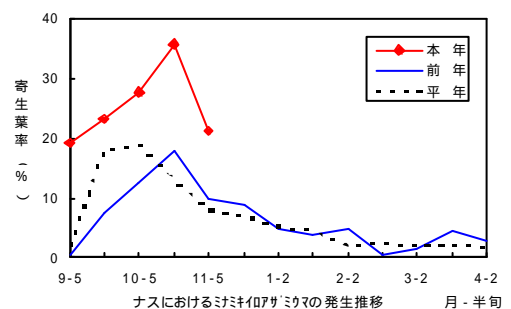
発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

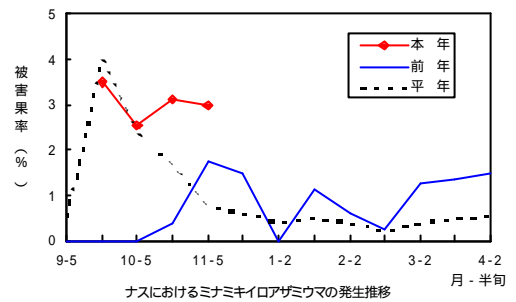
ア 11月5半旬調査結果（ + ）

ナス寄生葉率 21.1%（平年 10.0%、前年 8.0%）

ナス被害果率 3.0%（平年 0.8%、前年 1.8%）



む刈寄生葉率 0%(平年 0.7%、前年 0%)
 イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年より高く、降水量は平年並か多い。(+))



(3) 防除上の注意

ア 多発すると防除が困難になるため、年内の防除を徹底し密度の低下を図る。特に、ナスでマルハナバチを放飼する場合は使用できる農薬が制限されるため、年内の防除が重要である。

イ 本種はキュウリの黄化えそ病(MYSV)の媒介虫である。このウイルスはアザミウマ類が低密度でも伝染し、蔓延する恐れがあるので初期の防除を徹底する。

ウ 防除対策については、平成18年11月13日付「速報第6号」を参照のこと。

【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生現況		発生予報		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	平年比	前年比	
イチゴ 炭疽病	やや多	やや多	並	並	親株が不足した場合は、定植株の秋ランナーを利用する。その際、1株から1苗とする。 親株の防除対策については、平成18年10月13日付け技術情報「イチゴ炭疽病の防除対策について」を参照のこと。 発病後は防除が困難になるので、予防的に防除を行う。
	並	並	並	並	
	少	やや少	やや少	やや少	
	並	並	並	並	
ナス うどんこ病	やや少	並	並	並	発病後は防除が困難になるので、予防的に防除を行う。
	並	並	やや多	やや多	
	並	並	並	並	
トマト 灰色かび病	並	並	並	並	発病後は防除が困難になるので、予防的に防除を行う。
	やや少	やや少	やや少	やや少	
キュウリ べと病	並	並	やや少	やや少	発病後は防除が困難になるので、予防的に防除を行う。
	並	並	やや少	やや少	
	並	並	並	並	

作物名 病害虫名	発生現況	発生予報		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
キャベツ				
黒腐病	少	少	並	
菌核病	少	やや少	並	
コナガ	並	並	並	
レタス				
菌核病	並	並	並	
灰色かび病	並	並	並	
腐敗病	並	並	やや少	凍害にあうと発病しやすくなるので、トンネルのビニル被覆が遅れないようにする。ビニル被覆後は換気を行い、トンネル内が高温多湿にならないように管理する。
野菜共通				
ハスモンヨトウ	やや多	やや多	やや多	フェロモントラップによる誘殺数は平年よりやや多く、イチゴ、キャベツ、レタスほ場で発生が見られる。
オオタバコガ	やや多	やや多	やや多	フェロモントラップによる誘殺数は平年より少ないが、イチゴ、キャベツ、レタスほ場では発生が見られる。本虫は、中齢幼虫になると薬剤の効果落ちるので、孵化直後の幼虫をねらって防除を行う。
コナジラミ類	並	並	並	

農薬の適正使用、飛散防止の徹底を！

全ての農薬の残留基準が作物毎に設定され基準値を超えた食品（農産物）の販売が禁止されます。

農薬の使用に当たっては、農薬の使用基準を厳守するとともに周辺に飛散（ドリフト）しないよう、これまで以上に注意を払う必要があります。

1 農薬適正使用の徹底

適用作物、使用量、濃度、使用時期、使用回数を使用基準を遵守する。

動力噴霧器、薬液タンクなどの散布器具を十分に洗浄する。

他作物が隣接している場合は、なるべく双方に登録がある農薬を使用する。

2 飛散防止対策の徹底

風、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 生産履歴の記帳

農薬使用の際は、作物、ほ場毎、散布月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を記帳する。

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka>
電子メール kfok0301@sp.jpnpn.ne.jp